

「モリアゲヨウ2011国際森林年！」
～様々な手法で国際森林年を効果的にPRしました～

上越森林管理署 森林ふれあい係長 江口 隆祥
森林ふれあい係 丸山 良太

1 課題を取り上げた背景

2011年は、国連によって定められた「国際森林年」です。上越署では、この節目の年に、地域住民等と協同・連携するとともに国際森林年を署の重点取組事項として取組み方向を定め、国際森林年にふさわしい四季ごとの美しい森林を広く市民等にPRする様々な活動を展開しました。

2 取組の経過

(1) 国際森林年PR用品を作成しイベント等でPR

国際森林年のロゴマークを活用した当署オリジナルの横断幕・チラシ等を作成し、イベント等で活用しました。



(2) 既存イベント等に国際森林年の冠を付与

当署の行事はもとより、各団体等で実施しているイベント等へ「国際森林年」の冠を付けて頂くような様々な場面で要請を行いました。

また、地元中学校が実施する、子どもたちの手作り標識の設置及び登山道の清掃を行う妙高山への学校登山に協賛し、「2011国際森林年記念妙高登山道整備登山」の名前の入った横断幕を提供しました。



妙高山山頂で記念撮影

(3) 「国際森林年国内委員会事務局特別協力」の名義を使用

昨年から当署の重点取組事項として、環境省及び地域ボランティア等と取組んでいる「妙高市笹ヶ峰地域における生物多様性保全活動」（特定外来種の駆除及び在来種の植栽）を訴求力あるイベントにするための冠として、国際森林年国内委員会事務局へ申請を行い、特別協力名称の付与等を受けました。

(4) 国際森林年を効果的にPRするための新規イベントを企画

国民視点確認活動と国際森林年のPRを組合せた「2011国際森林年記念ネイチャークラフト教室（全3回）」を実施しました。

また、既存の森林教室を3つまとめて、「2011国際森林年記念特別森林教室～ドングリの森を作ろう！～」と題して、ナラ枯れ被害を踏まえた環境学習として300本のミズナラを植樹する活動を実施しました。

(5) 効果的なプレスリリース

国際森林年をPRするためには、マスコミに取り上げていただくことが一番のPRなことから、記者クラブの方々の興味を引くような活動を企画し、目を引くようなデザインのプレスリリースを作成し、投げ込みを行いました。



TV局等の取材風景

3 実行結果

(1) 横断幕やチラシ等によるPR結果

当署の国際森林年の旗印となる横断幕は、数多くのイベント等で人目を引き、十分なPR効果を得ました。

また、当署が作成したチラシは、イベントや会議等で配布するとともに（総配布枚数：約2,500枚）、併せてHPでの情報提供に努めました。（更新回数：37回）

(2) 既存のイベント実績（森林教室17回：945名、イベント5回：753名）

(3) 国際森林年国内委員会事務局特別協力のイベント実績（67名）

(4) 新規企画イベントの実績（2回（全6回）：335名）

(5) プレスリリースの効果

投げ込みを行った取組のほとんどが、新聞等に掲載されました。特にナラ枯れを踏まえたミズナラ植樹活動は、新潟県内のTV局で放映されました。（プレスリリース10回（共催者含む）、新聞等掲載：32回）

4 考察・まとめ

東日本大震災により、国・地方自治体等イベント等が中止・縮小されている中で、地元市や団体と協力しつつ、当署職員のアイデアと協力のもと、出来る限りの効果的なPRを行うことができました。

最後に、東日本東北大震災で、当署管内に避難されてきている皆様が、当署のイベントブース等に参加されて、喜んでいただいたことが職員一同の励みになりました。



ネイチャークラフト教室